

## 故障と点検

※取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

**ホース**  
8. きちんと施工されているか？

**スクリューセット**  
4. きちんと取り付けられているか？

**カートリッジ止ビス**  
5. 十分に締め付けてあるか？

**カートリッジ**  
3. 破損・ゴミかみはないか？

**水漏れ防止パッキン**  
6. きちんと取り付けられているか？

**カップリング**  
9. 割れていないか？

**アダプター**  
14. きちんと施工されているか？

**逆止弁**  
7. 破損・ゴミかみはないか？

**止水栓**  
1. 全開されているか？  
圧力は十分か？

**ストレーナー**  
10. ゴミづまりはないか？

**切替弁**  
11. キズ・ゴミかみはないか？

**泡沫器**  
2. ゴミづまりはないか？

**水漏れ防止パッキン**  
6. きちんと取り付けられているか？

**おもり**  
12. きちんと取り付けられているか？

**ホース逆止弁**  
13. 破損・ゴミかみはないか？

**逆止弁**  
7. 破損・ゴミかみはないか？

**止水栓**  
1. 全開されているか？  
圧力は十分か？

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 2. 7. 10. 13
水が止まらない	3
温度不良	1. 3. 7. 13
レバーがガタつく	4. 5
カウンター内に漏水する	6. 8. 9. 14
スプレーに切り替わらない	1. 2. 10 11. 13
ホースが引き出せない	8. 12

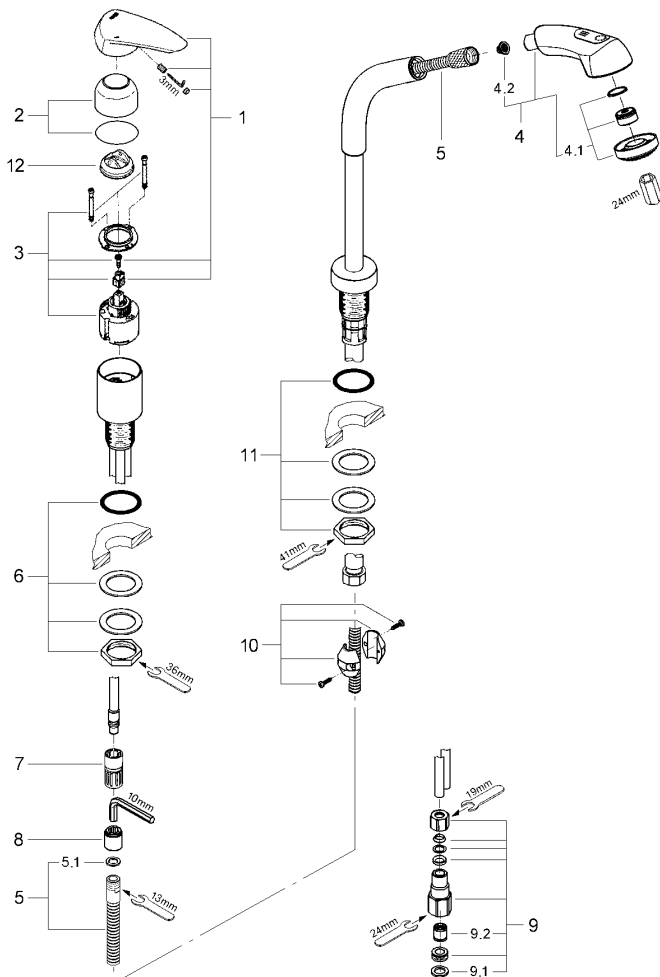
# シングルレバー洗髪洗面混合栓施工説明書

機種名	一般地用品番	寒冷地用品番
ユーロディスク(引棒なし)	3 2 9 0 8 0 0 1	3 2 9 0 8 0 0 C

- 製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
  - この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
  - 施工完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- また、この説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

## 分解図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。



図番	名称
1	レバーセット
2	化粧カバー
3	セラミックカートリッジ
4	スプレーヘッド
4.1	散水板セット
4.1.1	エアレーター(マウザー)
4.2	ストレーナー
5	ホース
5.1	ホースパッキン
6	締付セット
7	カップリング
8	ホースアダプター
9	逆止弁アダプター
9.1	1/2 パッキン
9.2	逆止弁φ15
10	おもり
11	締付セット
12	リミッター

※図は3 2 9 0 8 0 0 1です

※カウンター穴あけ寸法は 34～  
φ37で行ってください。  
カウンター厚 30mm 以下。

## 安全上の注意

施工前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## ⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

施工完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いこと、レバー、ハンドルが閉じていることを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

## 使用条件

### ● 給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(0.07Mpa [0.7kgf/C m<sup>2</sup>])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m<sup>2</sup>])の範囲とします。

給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大3：1以内）になるようにしてください。

◇ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(A+0.07Mpa [0.7kgf/C m<sup>2</sup>])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m<sup>2</sup>])の範囲とします。給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大3：1以内）になるようにしてください。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。

レバー、ハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度5℃、吐出温度40℃）によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度（60℃）設定です。

◇給水圧力が0.74Mpa [7.5kgf/C m<sup>2</sup>]を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

● 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓の設置をおすすめします。

● 給湯に蒸気を使用しないでください。

● 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。

## 施工前の注意

● 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

● 給水は上水道に接続してください。

※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

● 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。

● 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。

● 寒冷地仕様は不凍栓等を設置した寒冷地仕様配管設備でないと使用できません。

● 配管接続部を隠ぺいしないでください。水切棚に取り付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。

● 給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

● 逆止弁（接続）アダプターの接続ねじは平行ねじ G1/2 です。テーパねじ（TP1/2, R1/2）には使用しないでください。また止水には付属のパッキンは必ず使用してください。

## 取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

### 1. 接続部の水漏れ (図7参照)

吐水、止水を数回くりかえした後、図の箇所を点検してください。

- 止水栓とアダプターの接続部。
- アダプターと給水・湯給管の接続部。
- 給水・湯給管と本体の接続部。
- 本体とレバーの接続部。
- カップリングとホースの接続部。
- ホースとハンドスプレーの接続部。

※特に、この部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

### 2. 水量・湯温の調節 (図7参照)

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節してください。

※湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります。

### 3. ホース引き出しの操作確認 (図8参照)

お使いいただく現場で、快適な操作が得られるよう、確認してください。

※ハンドスプレーを2~3回出し入れし、ねじれたり引っ掛かりがないことを確認してください。

### 4. スプレーヘッドの清掃 (図9参照)

#### 整流器 (エアレーター)

- ①レバーハンドルを止水状態にしてください。
- ②整流器 (エアレーター) のキャップを別売の工具、または24mmスパナを使用し、ゆるめてください。
- ③整流器 (エアレーター) を手で外し、ゴミを取り除いてください。

※ハンドスプレー内部に砂等が入ることもありますので、押さえ板、スプリングを抜き取り、切換ボタンを押しながら通水させ、内部のゴミを洗い流してください。このときスプリングの紛失に特に注意してください。

※別売の工具 (01616031) または24mmスパナを使用して確実に締め付けてください。

#### ストレーナ

- ①レバーハンドルを止水状態にしてください。
- ②ホースナットを緩めてハンドスプレーを取り外す。
- ③ハンドスプレーの中に挿入されたストレーナを取り出し清掃する。

※ホースナットがホースの根元に最後まで入っていること。ホースがホース根元で遊びが無く完全に固定されていること。ハンドスプレーを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、接続部分から水漏れが無いことを確認してください。

※ホースナットはハンドスプレーにしっかり確実に締め付けてください。接続部から水が漏れて、キャビネット内を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

図7

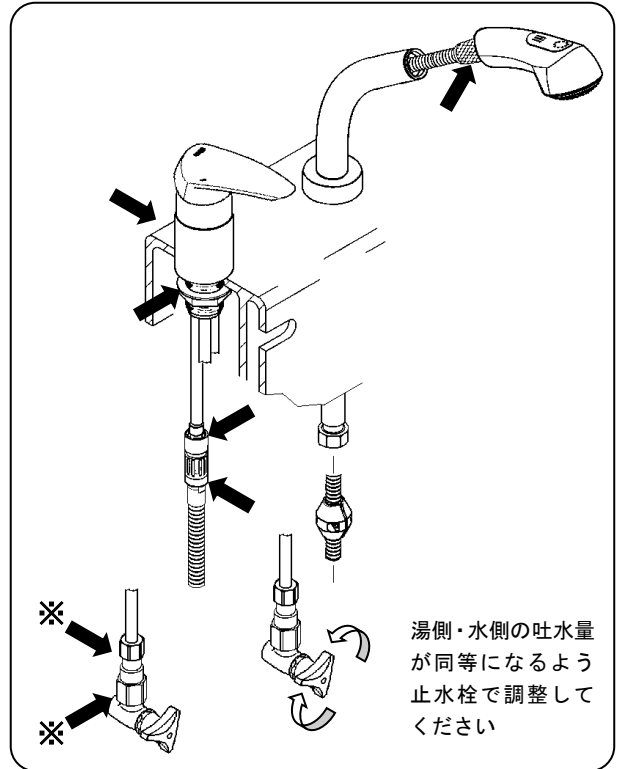


図8

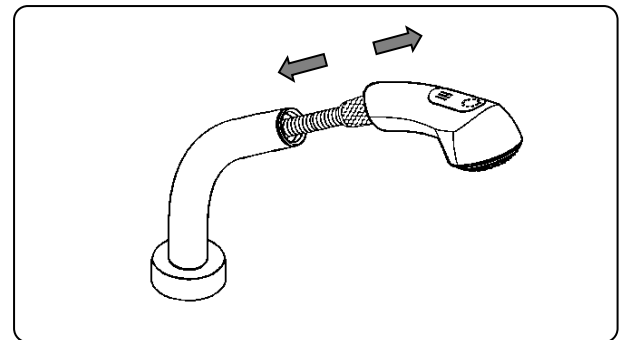
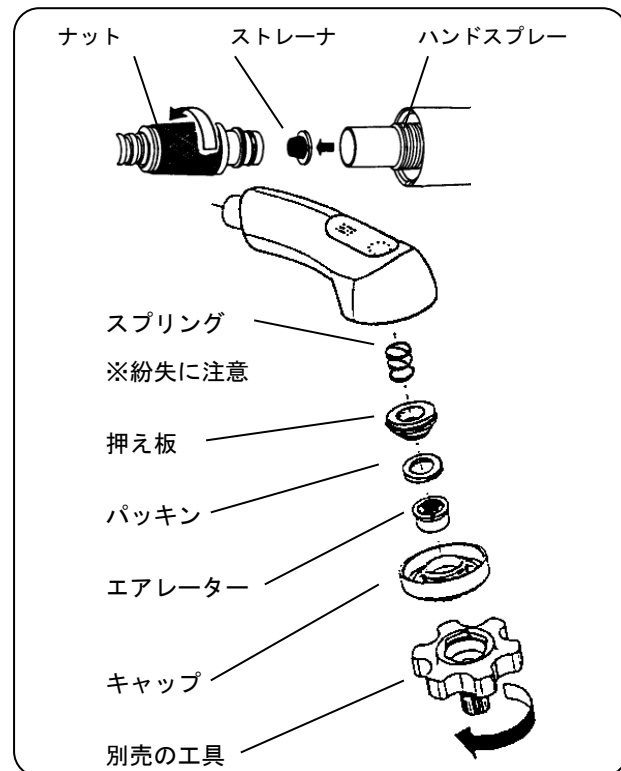


図9

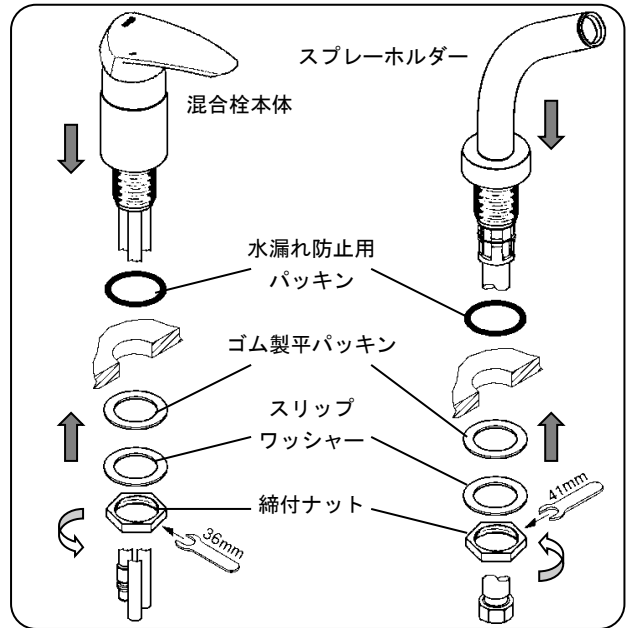


## 施工手順

### 1. 本体、ホルダーの取り付け (図1参照)

- ① 本体付属の水漏れ防止用パッキンだけを残して、本体締付部品を取り外してください。
- ② 本体をカウンター上部から取り付け穴に挿入します。給水・給湯管が正面に向くように図の通りセットしカウンターうらからゴム製平パッキン、スリップワッシャーを挿入し、締付ナットで締め付けてください。  
※ゴム製平パッキンとスリップワッシャーがきちんと重なっていること。本体水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。水栓を固定する際、取り付け穴が水栓本体の中心にくるように取り付けてください。  
※水栓本体が確実に固定されていることを確認してください。動く場合は、再度締付ナットを締め直して下さい。  
※固定には別売(市販品)のベーションレンチ等を使用して確実に締め付けてください。

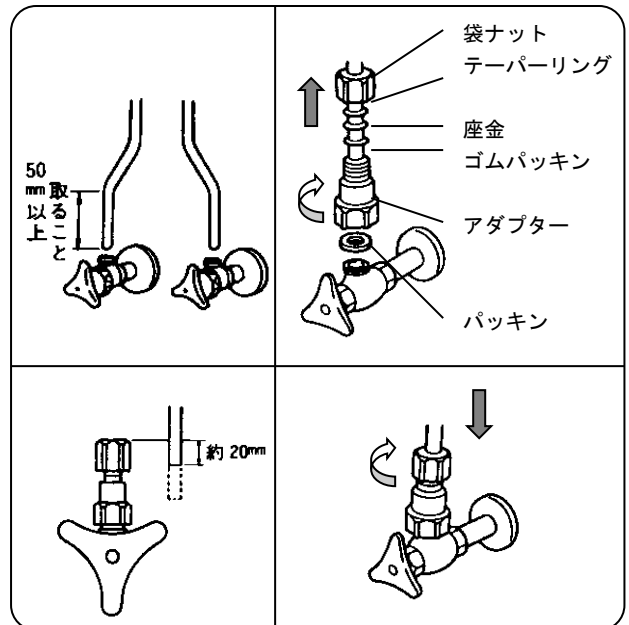
図1



### 2. 給水・給湯管の接続 (図2参照)

- ① 本体の給水・給湯パイプを図の通り、止水栓の取り出し芯に合うように曲げてください。  
※止水栓より50mm以内では、パイプを曲げないでください。  
※パイプはなるべくゆるやかに曲げ、垂直部分が長くなるようにしてください。  
※パイプがつぶれないように注意してください。
- ② 止水栓に同梱の逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)を仮固定した後、給水・給湯パイプの差込代20mmを確保し、余った部分をパイプカッター等で切断してください。またバリが出来た場合は必ず取り除いてください。
- ③ 給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、座金、ゴムパッキンの順に入れて、逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)に差し込んでください。
- ④ 仮固定しておいた逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)を止水栓にネジ込み、確実に固定してください。
- ⑤ 最後に、給水・給湯パイプを逆止弁(寒冷地仕様はアダプター)にしっかり差し込み、袋ナットをスパナ等で完全に締め付けてください。  
※締付は、200~300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

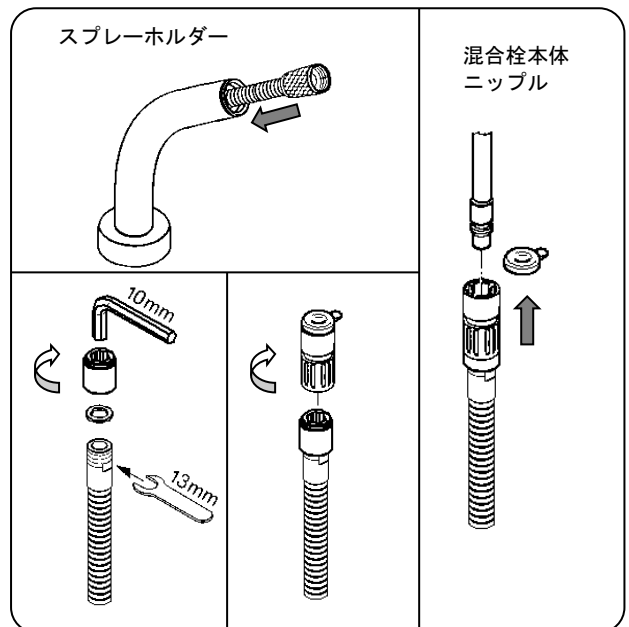
図2



### 3. 本体とホースの取り付け (図3参照)

- ① スプレーホルダーの上部ガイド穴にホースのネジ部側を挿入します。
- ② カウンター下でホースのネジ部にアダプターを10mm六角レンチで取り付けてください。  
※パッキンがよじれて水漏れがないよう、確実にねじ込んでください。
- ③ アダプターを取り付けたホースにカップリングを手でねじ込んでください。  
※オーリングを確認し、必要以上の締付トルクは加重しないでください。
- ④ カップリングのカバーを取り外して、本体側ニップルにカップリングを差し込んでください。  
※カップリングのねじ込みは、工具等を使わず必ず手で締め付けてください。カップリングを無理に締め過ぎると、カップリングが割れて家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。  
※カップリングを差し込む際は、ホースのねじれ、よじれを直し、自然な状態にしてから差し込んでください。  
※カップリングは『カチッ』と音がしてロックするまで差し込んでください。

図3



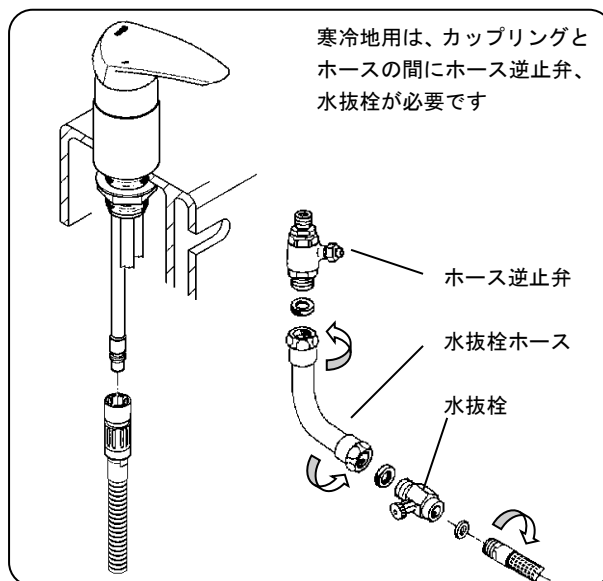
#### 4. ホース逆止弁の取り付け

##### 寒冷地用（図4参照）

寒冷地用の場合はホース側に逆止弁を取り付けるようになっております。

- ①ホースを13mmスパナで固定し、水抜栓を工具等で取り付けてください。
- ②水抜栓に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースの袋ナットを工具等で締め付けます。
- ③ホース逆止弁に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースのもう一方の袋ナットを工具等で締め付けます。
- ④ホース逆止弁にカップリングを19mmスパナでねじ込んでください。  
 ※パッキンを確認し、必要以上の締めトルクは加重しないでください。  
 ※水抜栓ホースを締め付ける際は、ホースがねじないよう注意してください。

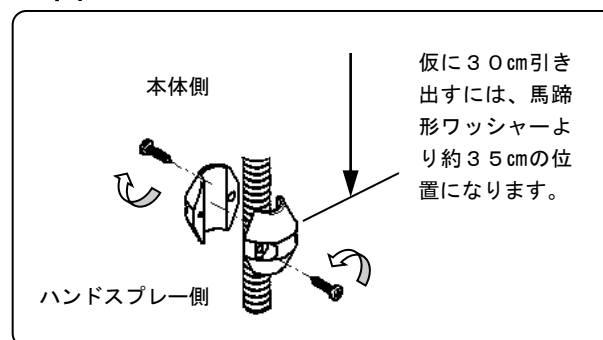
図4



#### 5. おもりの取り付け（図5参照）

- ①おもりは、ハンドスプレーの納まりをよくするためと、引き出したときのストッパーの役目をします。
- ②ホースにおもりをはさみ、両側よりビスでねじ込み固定してください。
- ③ホースの引き出し寸法は、お使いの洗面カウンターに合わせて調整してください。  
 ※ハンドスプレーをいっぱい引き出した状態で、ホースにゆとりがないときはおもりの位置をずらしてください。

図5



#### 6. ハンドスプレーの取り付け（図6参照）

- ①同梱の梱包箱からハンドスプレーを取り出し、接続部の穴にストレーナが挿入されていることを確認してください。
- ②ホース先端のリングがハンドスプレーにきちんと入るまで差し込んでください。
- ③ホースナットを手で右に回し、完全に止まるまで締め付けてください。
- ④ホースナットがホースの根元に最後まで入っていること。ホースがホース根元で遊びが無く完全に固定されていること。ハンドスプレーを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、接続部分から水漏れが無いことを確認してください。  
 ※水漏れがあった場合、1)、2)にゆるみが無いか確認し、再度上記の通り組み立ててください。  
 ※ホースナットはハンドスプレーにしっかり確実に締め付けてください。接続部から水が漏れて、キャビネット内を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

図6

